



東日本大震災により被害に遭われた市民の方々や児童などへ、植樹祭や森林教室、森林ふれあい事業などを通じて、津波被害を軽減した森林の重要性などを認識してもらおうと共に、フイトンチッドやマイナスイオンなど、森林浴によるリラックス効果により少しでもリフレッシュして頂くための、ソフト事業を数多く行っています。

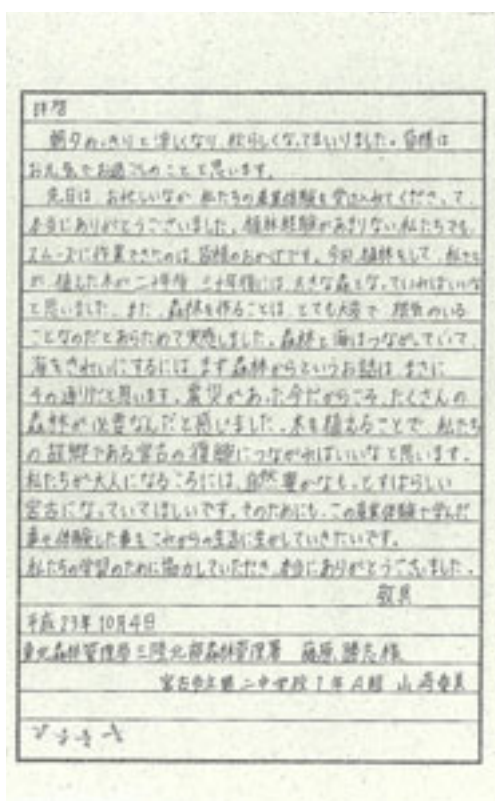
### 宮古湾復興祈願植樹祭

三陸北部森林管理署



三陸沿岸地域に甚大な危害を及ぼした東日本大震災から、早や半年が過ぎ、日夜懸命な復興作業が行われ、

復興の兆しが日増しに感じられるようになりました。  
宮古市の市立第二中学校の1年生は、総合学習の時間を通じ、古里の復興につながる「宮古復興プロジェクト」に取り組んでいます。生徒たちは、この取り組みの過程で、県の復興計画を学習したほか、津波被害を軽減



生徒さんからのお礼状の一部



各地からの  
便り



古里復興への取組「宮古湾復興植樹祭」を終えて

した森林の重要性を再認識し森林づくりを行うこととしました。

地域の要望を踏まえ、当署では10月3日(月)「宮古湾復興祈願植樹祭」を開催しました。当日は秋晴れの下、同校1年生58名と教諭4名ほか、地域住民22名が参加し、津波で壊滅的な被害を受けた宮古市津軽石の上流に位置する伐採跡地にポット苗のトチノキ1000本を、宮古市の

復興と旺盛な生長を祈願しながら一本一本丁寧に植えました。

本植樹祭は、当初、9月20日に行うこととしていたところ、台風15号の影響により今年度は中止を考えましたが、生徒たちの強い意志により実施することができました。

岩手県宮古市は、現実的には未だ不自由な生活をしている方も多く、復興までの道のりはほど遠い感があるかもしれませんが、職員は本植樹祭で生徒たちと接することができ、改めて「自分自身が今何をすべきか、何をすることができているのか。」を考えさせられる一日となりました。

被災地域の児童を対象とした森林教室の開催

宮城北部森林管理署



10月5日(水)、宮城県石巻市谷川浜地区の国有林において、石巻市立大原小学校3・4年生の児童を対象に森林教室を開催しました。

大原小学校の所在する石巻市大原浜地区は、3月11日に発生した東日本大震災の津波による人的被害は少なかったものの、家屋等の大半が流失し甚大な被害を被っており、学区内の児童の減少、仮設住宅から通



みどりの東北



職員からの説明を聞く参加児童

学する児童もいるなど、森林教室の開催自体も危ぶまれておりましたが、学校側から達ての依頼があり、今回開催する運びとなりました。

当日は天候にも恵まれ絶好の森林教室日となりました。参加した児童7名のほか教諭2名も当署職員の説明を熱心に聞き、植樹体験・手鋸による間伐体験・クラフト作り(壁飾り作成)などに取り組んでいました。

児童の中には、初めて使う唐鋸や鋸の使用に戸惑いながらも職員の助



植樹方法の説明を聞く参加児童

10月4日(火)、滝沢村立一本木小学校5年生を対象に森林教室を行いました。この森林教室は、一本木小

盛岡森林管理署

森林教室で治山ダム見学と間伐体験を実施



間伐作業に悪戦苦闘する参加児童

言のもと一生懸命に作業を行いました。

また、児童からの質問に当署職員が悪戦苦闘する場面もありました。

森林教室終了後、大原小学校長から、子供達に楽しい一時の企画と、さらに現地までの交通手段の確保等にも協力を頂き感謝申し上げる旨の言葉を頂きました。

当署では、今後とも次代を担う児童生徒を対象に森林環境教育に取り組んで行くとともに、小規模ながら植樹活動を通じて震災復興のための一助になればと考えております。



児童手作りの新聞の一部



間伐をする児童



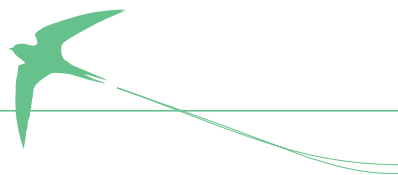
治山工事現場の見学

学校からの要請を受け毎年行われているもので、今年で11回目。当日はうっすら雪化粧した岩手山を仰ぎ見ることができ、絶好の森林教室日和となりました。

午前中は御神坂沢治山工事現場にて森林の役割や治山事業等についての説明を行い、既設の治山ダムや施工中の現場を見学。また、工事で実際に使用しているパワートリッパの

乗車体験も行い、児童からは「運転台が高くて緊張したけれど楽しかった。」「ダムを作るのは大変だと思った。」などの声が聞かれました。

午後は間伐体験を実施。間伐の目的と作業方法についての説明の後、悪戦苦闘をしながらも一人一人が「懸命にのこぎりを使って間伐を行いました。児童たちは、今回の森林教室を通じて、森林を身近に感じるとともに、



治山事業や森林整備の重要性を学び、秋の思い出になったことと思います。その後、学校から児童たちの手作りの新聞が届けられました。

「持続可能な森林づくり研修会」の開催について

仙台森林管理署



10月12日(水)、宮城南部・宮城北部の流域森林・林業活性化センターとの共催のもと、当署管内において本研修会を川崎町で開催しました。

当日は、秋晴れの中、約100名近い参加者が集まりました。また、川崎町長からご祝辞をいただくとともに本研修会にご参加いただきました。

午前中は、川崎町山村開発センターにおいて、局飯島計画課長による「森林共同施業団地について」、局販売課細田企画官による「森林作業道に



梅津活性化センター会長の挨拶



講演を聞く参加者

ついて」の講演をいただき、午後は小屋沢山国有林において、現地検討会を実施しました。

「森林・林業再生プラン」における民有林と国有林の連携を積極的に推進するための「森林共同施業団地」、より効率的かつ安定的な林業経営を実現するための基礎となる「森林作業道」について、わかりやすく講義していただきました。

また、現地での検討会においては、細田企画官及び当署河津業務課長



河津業務課長による現地説明

から、従来の作業道と新たな森林作業道についての違い、作設にあたっての注意点や壊れにくい作業道づくりについて、具体的にご指導をいただきました。

今後、林業の低コスト化を図るうえで、民有林・国有林の連携と森林路網の整備が重要な課題であり、持続可能な森林づくりに役立つことでしょう。

桃洞渓谷の鮮やかな紅葉

〜森林ガイド事業〜

米代東部森林管理署上小阿仁支署



6月に次ぐ今年度2回目となる

森林ガイド事業「秋の桃洞渓谷と温泉浴」を10月12日(水)に開催しま



鮮やかな紅葉の中を散策する参加者たち

した。大仙市や能代市等、秋田県内各地から14名の参加があり、当日は好天にも恵まれ絶好の散策日和とな

りました。また、木々の紅葉も鮮やかに色付いており桃洞滝とのコントラストもすばらしく、参加者はその美しい



桃洞滝の前で記念撮影

風景をカメラに納めたり、散策の道中では樹木やキノコの名前、森林の役割等について支署職員の説明を聞きながら森林浴を楽しんでいました。

森林の鮮やかな彩りと桃洞渓谷の桃洞滝を満喫した後は、秋田内陸線の阿仁前田駅内にあるクウインズ森吉で温泉浴を楽しんで頂きました。参加者からは「すばらしい紅葉に出会えて大満足です。」「次回の企画も楽しみにしています。」などの感想が寄せられました。

今後も参加者に喜んでいただける企画を練っていきたいと思います。

「まぼろしの滝・与蔵の森探検ツアー」に参加して

山形森林管理署最上支署





みどりの東北

鮭川村観光協会主催の「まぼろしの滝・与蔵の森探検ツアー」は、平成6年から始まり、今年で18回目を数えます。トレッキングを通じてまぼろしの滝・与蔵の森エリアの大自然に親しみ、その魅力と可能性を参加者全員で探るもので、新緑の6月に開催され毎年1000人も参加する大規模なイベントとな



「トロの木」の前で記念撮影

っています。幻想的なブナ林の中を探究しながら歩く山道は時には険しく、時には穏やかに気分をリフレッシュしてくれます。

一人の村民の50年も前の少年の頃のおぼろげな記憶をたどり、まぼろしの滝を求めて村の調査隊が与蔵の森に足を踏み入れ、存在を確認したのは平成5年です。地元の人も知らなかった地図上にない滝として発見された滝群の名前は、「大滝」「白猿の滝」「夫婦滝」「湯沢の滝」の4つで、

特に「湯沢の滝」は落差130mの迫力のある滝となっています。

下山後は、当支署スタッフによる「森のクイズ大会」で参加者をさらに和ませ、最後は「トトロの木」と命名されたご神木を鑑賞し、全員で記念撮影をします。

終点は羽根沢温泉ですから、登山の疲れを温泉で流す人など聞いて、「来年またお会いしましょう。」を合言葉に、それぞれ帰路に着くのが恒例のようです。

青森工業高校で自然災害の復旧に関する講義を実施  
治山課

生徒の専門的かつ高度な資格取得による進学・就職力向上を目的とした専門家による講習会等「未来スペシャリスト育成プロジェクト」が11月14日(月)、青森工業高校で行われ、都市環境科・建築科生徒70名に対し東北森林管理局治山課長が講義を行いました。

この講習会は進路学習の一環として今年度から行われているもので、今回の講義では、我が国の森林の状況とその機能、平成20年岩手・宮城内陸地震災害の復旧対策、東北地方太

平洋沖地震による被害等、生徒がなかなか接する機会がない森林・林業の役割、自然災害の発生と復旧に関する知識の向上に役立つような内容を用意しました。

およそ90分の講義では、東北地方の特徴的な地形・地質により多様な山地災害が発生することや、航空機による地すべり調査、地震・津波による被害状況などについて、図や写真を用いて分かりやすい説明に心掛けました。

生徒からは、「森林官はどんな仕事をしているのですか。」「岩手・宮城内陸地震と3・11の東日本大震災の違いは何ですか。また、日頃自然災害に対して各省庁とどういう打合せを行うのですか。」「高山植物や貴重な野鳥などを捕獲して、はく製などに行っているようですが、どのように対応しているのですか。また、取った



講義の状況1



講義の状況2

らどのような罪になるのですか。」という質問があり、東北森林管理局の仕事や自然災害の復旧に関して興味を持ってくれたと感じました。講義の後、都市環境科長の工藤先生と意見交換を行い、先生からは、「森・川・海のつながりを認識させ、地域の環境に対する生徒の意識を高めていきたい。」「森林管理局で高校生を受け入れる体験イベントやインターンシップがあれば是非参加したい。」などの意見がだされました。今回の講義は、森林・林業の役割や自然災害の復旧といった東北森林管理局の取組をPRする良い機会となりました。しかし、高校生のための講義が初めてということで、専門的な用語を極力使わずに説明に心掛けたものの、伝える立場としてもっと勉強しなければと実感しました。